日本農林漁業振興会会長賞受賞

太江田浩次さん文子さん夫妻（鏡町）

平成25年度農林水産祭で、太江田浩次さん文子さん夫妻が、日本農林漁業振興会会長賞（蚕糸・地域特産部門）を受賞し、11月27日、受賞報告のため市長を表敬訪問しました。

農林水産祭は、農林水産業と食への認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善や経営発展の意欲を高めるため実施されています。今年度は、全国で農林水産大臣賞を受賞した492点の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞の各賞が7つの部門にそれぞれ授与されました。

太江田さんは、葉たばこや飼料稲など25haを経営。機械の導入や農地の集団化を進めることで省力化を図るとともに、飼料稲栽培によるたばこの連作障害回避や耕畜連携を図っており、大規模かつ高品質な葉たばこ栽培を実現していることが評価されました。

がんばれ未来のＪリーガー

やつしろキッズサッカー

11月17日、「やつしろキッズサッカーwithKIRIN」が、日奈久ドリームランド「シー・湯・遊」で開催されました。

これは、サッカーを通じた子どもたちの心身の健全な育成などを目的に、同大会実行委員会が行っているもので、第6回目の今回は、U-9（小学3年生）からU-5（年中）までの5つのクラスに、県内を中心とした九州各地から計100チーム・約830人が参加しました。

大会は、エスペランサ熊本の丸尾晏時（あんじ）くんと山口風佳（ふうか）さんの力強い選手宣誓で開幕。12面の各コートで熱戦が繰り広げられ、必死にボールを追いかける子どもたちに、会場からは盛んな声援が送られていました。

※試合結果は市ホームページに掲載

トマトが主役の料理が集結

「はちべえトマト」料理コンテスト

▲学生部門グランプリ「ビールに合うトマトのおつまみ」

▲アマ部門グランプリ「トマトと夏の忘れ物シャキシャキ野菜たっぷりトマト new 麺」

▲プロ部門グランプリ「のりのり！とまとうふ」

▲審査員が見守る中、手際よく調理する高校生

『はちべえトマト』料理コンテスト」が12月8日に太田郷公民館で行われ、一次書類審査を通過した14の個人やグループが参加しました。

これは、「はちべえトマト」の認知度向上と消費量の増加につながる、手軽にできるトマトが主役の料理を発掘するため、八代地方トマト・メロン販売連絡協議会が開催したもので、今回で4回目です。

学生、アマ、プロの3部門に分かれ、制限時間30分で調理。ホテル熊本テルサ総支配人の土山憲幸審査委員長らが実食し、味覚、主役度などを審査しました。

当コンテストではレシピ本を作成予定で、今回グランプリとなった料理は、第3回までの受賞作品とともに掲載される予定です。

災害に備えて

八代市総合防災訓練

▲消防団と自衛隊による土のう積み訓練

▲DMAT（災害派遣医療チーム）の救護訓練

11月17日、市や防災機関、民間協力団体、市民約千人が参加し、球磨川河川緑地で八代市総合防災訓練が実施されました。

今回は、八代地方を中心に1時間に50ミリ以上の雨が降り続き、球磨川が氾濫水位に達したと想定した水害対処訓練と、日奈久断層を震源とする地震が発生し、市内で未曾有の被害が発生したと想定した地震対処訓練が行われ、情報伝達や避難誘導、救出救護、ライフライン復旧など、それぞれの機関が連携を確認しながら、実戦さながらの訓練となりました。

また、郡築小学校でも住民参加型防災訓練があり、住民避難誘導や孤立者救助、心肺蘇生やＡＥＤの使い方など、住民が主体となって訓練を行いました。

山本消防団長は「いざというとき、どれだけ落ち着いて行動できるかが大事になる。これからも訓練を積み重ねて災害に備えていきたい」と話しました。

１００歳 おめでとうございます

成畑 キミエさん
（鏡町）
大正２年１２月６日生

松永 ミツ子さん
（東片町）
大正２年１２月５日生

高口（たかぐち） 秀男さん
（日置町）
大正２年１１月２７日生

宮永 一能さん
（毘舎丸町）
大正２年１１月２１日生

飲酒・喫煙をせず、何でもよく食べるという一能（かずの）さん。自宅で一人暮らしをしています。

昭和17年に徴兵され、部隊長の付き人でした。終戦後帰省し、町内長を16年務め、多くの表彰を受けました。

歌やスポーツの番組を観ることが楽しみという一能さんの長寿の秘訣は「くよくよしないこと」。

長女・次男と暮らしている秀男さん。熊本市内で生まれ育ち、戦時中は上海で２階建てバスの運転などをしていました。戦後は、妻の故郷である八代に移り住み、青果類の仲買の仕事に従事。

何十年も運転してきた自動車の無事故無違反が自慢という秀男さんの長寿の秘訣は「運動と、人との会話が好きなこと、何でも食べること」。

テレビ鑑賞が楽しみで、野球や相撲番組をよく観るというミツ子さん。８人きょうだいの４番目として育ち、結婚後、米やい草を作りながら５人の子どもを育ててきました。農作業をやめてからは、家事などをしながら、趣味の俳句を楽しんできたといいます。

長寿の秘訣は「自然体で生活してきたこと」。

次男夫婦と孫の４人で暮らしているキミエさん。大牟田市に生まれ、８歳で母親を亡くし、一家で鏡町に移り住みました。結婚後は、農業で生計を立て、得意の料理で家族を喜ばせていたそうです。何事も丁寧な性格で、現在も自身でされる洗濯は、クリーニングに出したかのような仕上がり。

長寿の秘訣は「のんきなこと」。

八代港保安対策総合訓練

▲不審船を追い詰めていく巡視艇

11月20日、八代港コンテナターミナルで「八代港保安対策総合訓練」が実施され、八代警察署や八代海上保安署など港湾関係者約30人が参加しました。

係員の制止を振り切ってコンテナヤードに侵入した不審者を制圧する訓練では、通報により駆け付けた２人の八代警察署員が不審者と格闘の末、逮捕。また、岸壁に接近してきた不審船の海上での制圧訓練では、海上保安庁の巡視艇「なつかぜ」がサイレンを鳴らしながら不審船を追跡し制圧しました。

八代市造園防災協議会 剪定奉仕

▲高所作業車を使い、２０ｍ程の高さから木の枝を切り落とす会員

11月19日、八代市造園防災協議会の会員13人が、麦島東公園や市役所玄関前などの樹木の剪定をボランティアで行いました。

これは、「災害時における応急対策活動に関する協定」を市と結ぶ同協議会が、災害がないときでも安全で快適な公園づくりに寄与したいと、５年前から続けているものです。

高い位置からチェーンソーで木の枝を切り落とし、落ちた木の枝をトラックに運ぶ作業がてきぱきと進められ、うっそうとしていた樹木はすっきりとした姿になりました。

市と中九州短期大学が包括協定を締結

▲調印を終え握手する中川靜也理事長（右）と中村市長

八代市と中九州短期大学は、まちづくり、地域活性化、健康・福祉、人材交流・育成などさまざまな分野で相互に協力し連携した活動を進めるため、包括協定を締結することで合意し、11月19日、市役所で調印を行いました。

中九州短期大学の中川靜也理事長は「学校が持つ知的・人的資産を生かし、八代の発展に貢献していきたい」と述べました。

なお、市と高等教育機関との包括協定締結は、崇城大学、熊本県立大学、熊本高等専門学校に続いて４件目になります。

やつしろ緑のカーテンコンテスト

▲表彰状を手にする入賞者

11月25日、「やつしろ緑のカーテンコンテスト」の表彰式が市役所で行われ、3個人、5団体が中村市長から表彰されました。

このコンテストは、「ふるさと八代元気づくり応援基金」を活用し、夏の省エネや節電、地球温暖化対策として昨年度から実施しているものです。

市民部門で最優秀賞を受賞した松崎町の井上隆司さんは「前年の葉や茎を腐葉土として再利用していることなどが評価されたのでしょう」と述べました。

※表彰の詳しい結果は市ホームページに掲載

農業クラブ全国大会で入賞

▲受賞報告に訪れた生徒たち

「農業高校生の甲子園」と呼ばれる第64回日本学校農業クラブ全国大会に出場し、優秀賞を受賞した八代農業高等学校の生徒8人が、11月22日、市役所を訪れ市長に受賞報告をしました。

10月22日から24日まで行われた大会には、全国から332校、1864人が出場し、実習で培った知識やスキルの成果を競いました。

八代農業高等学校は、農業鑑定競技会で5人、平板測量競技会では3人が優秀賞を受賞しました。

全日本高等学校吹奏楽大会で入賞

▲左から日當美里さん、土田佳奈さん、顧問の服部明子さん

11月9・10日に横浜市で開催された「第15回全日本高等学校吹奏楽大会in横浜」に出場した八代白百合学園高等学校吹奏楽部の部員代表ら4人が、11月22日に市役所を訪れ、市長に大会結果の報告を行いました。

この大会は高校吹奏楽三大大会の一つで、審査選考された吹奏楽部など44団体が出場しました。八代白百合学園高等学校は、チェコの作曲家フチークの「剣士の入場」を演奏。ステージでのマナーが美しく、また、元気あふれる演奏により、審査員特別賞にあたる「JBA下谷賞」を受賞しました。

ごろ☆はち活動

～ ごろっと丸ごと八代を綺麗に！～

▲秀岳館高校裏の緑の回廊線を清掃する参加者

12月8日、田中町の八代緑の回廊線と田中児童公園で清掃活動が行われました。

これは、特定非営利活動法人「八代福祉ネットワークあじさい」が、八代をごみの無い、きれいな街にすることを目的に行っており、今回で3回目。同法人のスタッフをはじめ、八代東高校や秀岳館高校の生徒、一般ボランティアなど約40人が参加しました。

街路樹や側溝など、見つけにくいところにある空き缶やペットボトルなどが拾い集められ、ごみ袋はいっぱいになりました。

人権子ども集会フェスティバル

▲「狭山事件」についての語りの中で、「差別裁判をうちくだこう」を歌う若鳩子ども会の皆さん

「部落差別をはじめすべての差別をなくす 人権子ども集会 フェスティバルin八代」が12月7日に市総合体育館で行われ、八代地域の小中学生や関係者など多くの人が参加しました。

これは、差別のない人権のまちづくりを目指し、人権問題を身近に考える機会として開催されたものです。

ステージでは、人権や差別をテーマに、各学校や団体による語りや劇の発表などがありました。最後は、参加者による人権パレードが中心市街地を中心に行われました。

八代海 河川・浜辺の大そうじ大会

▲大島周辺の浜辺を清掃する参加者

12月1日、八代海沿岸6カ所で河川・浜辺の大そうじ大会が実施され、学生や企業など約200人が参加しました。

これは、「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議と「次世代のためにがんばろ会」が、八代海の現状に目を向け、再生に向けた意識を高めるために企画したもので、今年で4回目です。

浜辺などにはペットボトルやビニール袋などがたくさんあり、大袋に溢れんばかりのごみが集まりました。その後、万葉の里公園へ移動し、ごみの分別を行いました。